

二片の木簡は直接接合しないが同一個体と思われる。表の一文
目は「年」あるいは「平」、四文字目は「為」あるいは「条」であ
ろう。もう一片には八文字が書かれており、最後の二文字はひらが
なの「さ」「も」と読める。裏にも何か書かれているが判読できな
い。二片とも板状の杉材である。

木簡の釈読にあたり奈良大学水野正好氏からご教示いただいた。

9 関係文献

〔富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所〕梅原加賀坊遺跡・
久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告〕（富山県文化振興
財団埋蔵文化財調査報告八 一九九六年）

（三島道子）

新潟・大坪遺跡 おおつぼ

- 1 所在地 新潟県南蒲原郡田上町大字川船河字大坪
- 2 調査期間 一九九四年（平6）一〇月～十二月
- 3 発掘機関 田上町教育委員会
- 4 調査担当者 田畑 弘・風間 力
- 5 遺跡の種類 遺物包含地
- 6 遺跡の年代 古墳時代～平安時代、近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（新津）

調査地は、明治末年の耕地整理時に、標高の高い部分が削平され
て低い土地に埋められ、また、ほぼ中央を流れていた茗ヶ谷川を迂
回させて独自に区画されて
おり、周囲の水田の並びに
比べると特異な形を呈して
いる。

調査は、県営圃場整備事
業に伴う緊急調査で水路部
分並びに工事により削平さ
れる部分約一四〇〇㎡につ
いて実施した。確認された

遺構は、そのほとんどが平安時代中期のものである。

遺物は、平安時代中期の土器並びに近世陶器が多数を占める。木簡は不整形な落ち込み遺構であるSX-8の上面から一点出土している。木簡と同時期と考えられる土器の中には須恵器の杯の側面に「下」と記された墨書土器が一点出土している。なお、加茂市の民俗資料館に大坪遺跡の採取遺物とされる墨書土器が二点所蔵されている。一つは土師器の杯の底面に「上」、もう一つは須恵器の有台杯の底面に判読はできないが「木」か「水」という文字が記されている。二点とも平安時代中期の土器である（新潟墨書土器検討会「新潟県内出土の墨書土器（稿二）」、一九九五年）。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・ □ 前



(99)×27×4 081

上下端とも欠損しており、形状については不明である。表面に二文字確認できるが、判読できたのは「前」一文字である。

木簡の釈文については、新潟大学文学部の小林昌二氏、原直史氏、並びに同大学院生の相沢央氏にご教示いただいた。

(田畑 弘)

